

シラバス情報

授業方法	講義・実験・実習
系列	自動車整備
科目名	シャシ整備
必修・選択	必修科目・選択科目
対象学科	一級自動車整備科・二級自動車整備科
年次学期・曜日・時限	1年後期・火曜日・1・2時限あるいは3・4時限
時限数	24時限（中間及び期末試験を除く）
担当教員名	友川 強史
実務経験	有・無
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、整備を行う上で必要となるシャシを構成する各装置についての講義を実施する。
授業の目的	シャシを構成する各装置・部品等の保守・点検・整備について講義する。
テキスト	三級自動車整備士（総合）（日本自動車整備振興会連合会 発行）

授業計画

授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト範囲
第1回	フレーム	フレームの構造、種類及び特徴について解説	P.288~290
第2回	ボデー	ボデーの構造、種類及び特徴について解説	P.290~295
第3回	ボデー機能部品	ボデー機能部品の構造、種類及び特徴について解説	P.295~297
第4回	ボデー機能部品2 ボデーの塗装	ボデー機能部品と塗装の構造、種類及び特徴について解説	P.298~300
第5回	安全装置	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.301~303
第6回	点検整備1	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.350~351
	中間試験	第6回までの授業内容に関する筆記試験	
第7回	点検整備2	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.351~353
第8回	点検整備3	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.353~354
第9回	点検整備4	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.355~356

第 10 回	点検整備 5	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.357~360						
第 11 回	点検整備 6	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.360~363						
第 12 回	点検整備 7	異常などの症状や原因について、整備と調整方法や保守についての要点と注意点	P.364~365						
	期末試験	第1回～第12回までの授業内容に関する筆記試験							
到達目標	フレーム及びボーデーを構成する各部品の構造・機能、及びそれらの装置の作動について講義する。点検整備の重要性を理解し、シャシの各部品装置の点検及び整備方法を習得する。								
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、中間試験並びに期末試験を合算して行う。								
定期試験受験資格	開講された全时限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した时限がある場合は、補講も完了している者。								
成績評価基準	<p>成績評価は、期末試験の点数が40点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>中間試験の点数</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末試験の点数</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>平常点</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>上記の割合によって学期末の評点が60点以上である場合、以下によって評価する。</p> <p style="text-align: center;">60～69点 = 可、70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>60点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで60点以上のとき履修を認定し、成績は60点 = 可とする。</p>			中間試験の点数	30%	期末試験の点数	40%	平常点	30%
中間試験の点数	30%								
期末試験の点数	40%								
平常点	30%								
成績評価できない場合の基準	全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、又は、成績評価が60点未満の場合。								